



中国語で頌を唱える

善光寺で首座法戦式が修行された。首座は神奈川県小田原市・成願寺住職山口晴通老師の徒弟(三男)勝隆師。西堂を善光寺の本寺である栃木県大田原市・光真寺住職黒田俊雄老師が務め、後堂には神奈川県第二宗務所第五教区の教区長、横浜市・貞昌院住職亀野哲雄老師が就いた。

ユニークなのは弁事を中国人僧の胡建明師がつとめ、中国語で頌を唱えたこと。胡師は天童寺で修祥監院に就いて得度し、住持の明暘法師のもとで受戒した学僧。来日して永平寺の南澤道人監院の弟子になり、駒澤大学仏教学部禅学科で学び、黒田住職が主宰する善光寺留学僧育英会の給費を得てドイツのハンブルグ大学で仏教を学んだ。現在は東京大学の研究生として学

問研究に打ち込んでおり、学位取得後は永平寺で安居修行して道元禪を修得し、天童寺に帰って行学を後進に伝えることを願っている。首座の本師・山口晴通老師が漢詩の大家であることから、中国語で頌を唱える趣向となった。

勝隆上座は法臘十三、年齢二十三。力のこもった真剣な問答を終えて、祝語を受けた後、西堂の黒田光真寺住職が「首座が師匠と共に拝をしている姿を見て、仏道のよさをしみじみと感じた。肉体をいただいたのは両親からであるが、その上に仏法をいただいたことは有り難いことだ。人間、御縁ほど尊いものはない。善光寺で法戦式を修行したこの御縁を大事にして、本師さまにお尽くし下さるよう願う」と祝意を述べた。

